

## 「防災講演&心の唄コンサート」(2012年3月18日) レポート

福井先生からご案内頂いた“心の唄コンサート実行委員会”(福井先生が実行委員長)主催の「防災講演&心の唄コンサート」が3月18日、伊勢原市中央公民館で開催され参加しました。

東日本大震災が起きてから丁度1年を経過、最近も大きな余震が続き不安な毎日です。伊勢原市民の皆さんも防災意識が高まりつつあるのでしょうか、市長さんを始め会場には大勢の人が集まりました。福井塾、FJC実践塾からの参加は1期生八木さん、4期生浅川さん、5期生天沼さん、多賀、そして7期生江幡さんです。

会は次の2部構成で行われました。

第一部 映像と語り・基調講演

第二部 心の唄コンサート(心の唄バンド)

第一部基調講演の国交省 渋谷氏の講演で印象に残ったのは、「生き残ってからのことよりも生き残るため、死なないための努力を先にすることが重要」とのことです。耐震、防災への取り組みは今まで以上に必要と感じました。

以下、第一部について簡単にその内容を記します。第二部については天沼さんから報告があります。



講演会の会場前では“NPO 法人暮らしと耐震協議会”による「住まいの無料相談会」も開催された。

### 第一部 映像と語り・基調講演

#### 1. 東日本大震災映像

#### 2. あいさつ 心の唄コンサート実行委員長 福井義幸氏

福井先生から挨拶がありました。「首都圏直下型地震が遠からず来ると言われている。自助(自分の安全は自分で守る)、共助(地域の人助け合い)、公助(公益企業による災害支援活動)など何をすればよいのか、今回の講演会がその行動のきっかけとなれば幸いです。」

### 3. 都市型大地震 阪神淡路大震災衝撃映像と被災者が語る「そのとき、何が起きたか」 阪神淡路大震災語り部 山内享子氏

CG・特撮技術による兵庫県南部地震の様子を再現した映像(昨年の福井塾でも拝見させて頂きましたがちょっとリアルで衝撃的です)を観たあと、山内さんから当時の様子が語られました。

山内さんは当時14階建て共同住宅の13階に居住されていたそうで、地震のときは縦揺れ、横揺れという感じではなくミキサードかき回された感じだったそうです。家具は倒れて壊れ、電気温水器も倒れ熱湯が流れ出て歩く足場もなく…。窓から長田町の火災が見えたが共助もままならず…。

### 4. 基調講演「迫りくる大地震～今なすべきこと～」

国土交通省総合政策局総務課長 (併)復興庁総括局付 渋谷和久氏

(箇条書きで概略を記します)

- ・地震災害による死者は”火災”、”倒壊”、”津波”の3つによることが多く、日本ははからずもその3つの大災害を受けてしまった。

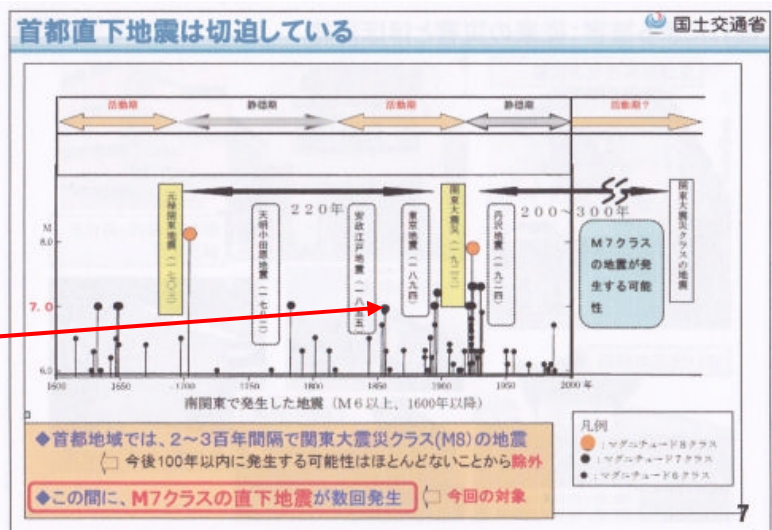
- ①関東大震災 → 死者10万人の約9割が火災による
- ②阪神・淡路大震災 → 死者6,000人の約8割が建物の倒壊による
- ③東日本大震災 → 死者15,000人の約9割が溺死による



国交省 渋谷氏による基調講演

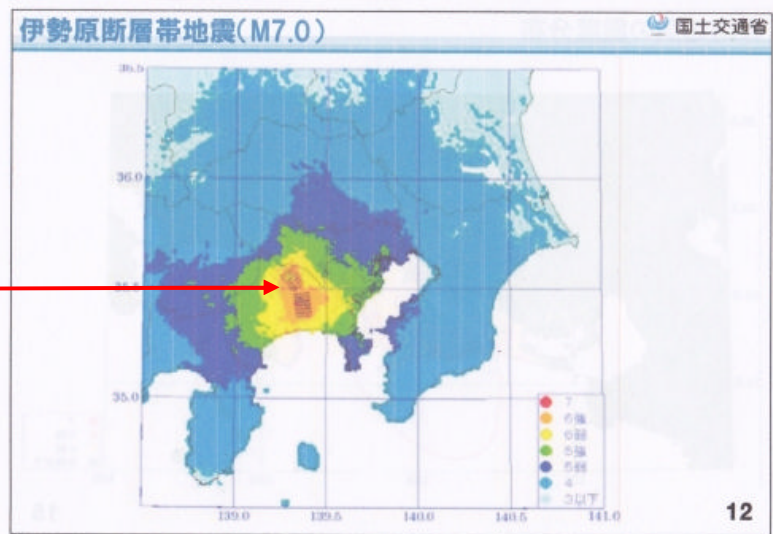
- ・関東大震災では、伊勢原は建物の全壊が約半数にのぼった。そしてその後の200mmの豪雨で大山の土石流が起り、140戸が流された。
- ・首都直下地震は過去200～300年周期でM8クラスの大地震が発生し、この間にM7クラスの直下地震が数回発生している。

M8クラス大地震の間にM7クラスの直下地震が数回発生している。



- ・首都直下型地震は 18 通り想定され、その一つに伊勢原断層帯地震がある。伊勢原では震度 6 強が推定されているのでその認識が必要。

伊勢原断層帯地震の規模は M7.0 程度と推定され、伊勢原の震度は 6 強となっている。



- ・国土交通省では被害を軽減する減災目標を「今後 10 年間で死者数を半減」としている。そのために住宅の耐震化(H20 年 79%→H32 年 95%)、家具の固定(30%→60%)を促進する。
- ・昭和 56 年 6 月に建築基準法が改正され耐震基準が大幅に強化された。歳月が経過した家屋は耐震診断・耐震改修をしたい。
- ・木造住宅の耐震改修工事費は平均 210 万円/戸となっている。補助金制度等を利用するとよい。
- ・問題となっている大規模盛土造成地の滑動対策、液状化対策等の事業も推進する。
- ・大災害時の救助・避難には近所の助け合い「共助」が大きな役割を果たすが、それには普段からの地域のつながり、コミュニティの構築が必要となる。
- ・「受援力」(ボランティアを地域で受け入れる環境)も普段からまちづくりでつちかう必要がある。内閣府のパンフレット → <http://www.bousai-vol.go.jp/juenryoku/>
- ・東京銀座数寄屋橋公園に関東大震災の記念塔があり、その塔には「不意の地震に不断の用意」と刻まれている。この惨事を二度と繰り返さぬよう注意を喚起している。

平塚での防災まちづくりの取り組み

